

点検

広野町 道路トンネル定期点検を実施しました

当支援機構は、広野町が管理する道路トンネル(延長50m、内空高さ4.5m、内空幅6.4m)の3巡目定期点検業務を受託・実施しました。

山岳トンネルである当該トンネルは、1巡目点検時に覆工コンクリートの剥離やひびわれ、漏水箇所が認められたため、第三者被害防止の観点から、当て板工(繊維強化プラスチック)や導水樋工を取り付ける対策補修が実施されています。今回の点検では、これらの対策工が適切に機能しているか、その経過を把握することも重要となります。

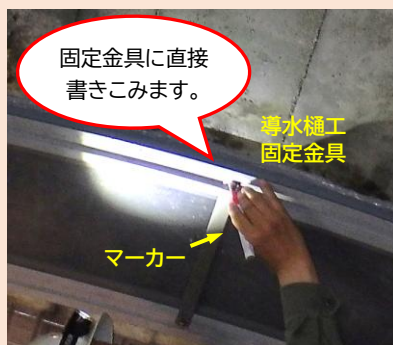


トンネル正面(起点側)

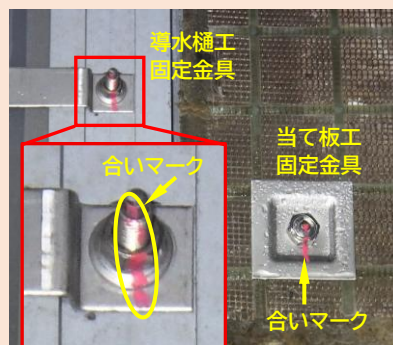
トンネル点検作業状況



点検状況(全景)



合いマーク施工状況



合いマーク施工後の固定金具

点検は、近接目視により打音検査や触診を行うと共に、新たな試みとして固定金具に「合いマーク(ボルトの締め付け状況を示す目印)」を施工しました。

「合いマーク」を施工することで、次回の点検では路上や写真から赤い線(マーク)のずれを確認するだけで、ボルトのゆるみを把握できます。



合いマーク
専用マーカー

- ・国土交通省 NETIS(新技術情報提供システム)に登録された消えにくいマーカー
- ・屋外使用5年に相当する試験後も書いた線が読めるほどの消えにくさがある

トンネルをはじめ、橋梁、シェッド・大型カルバート、横断歩道橋、門型標識などの道路施設は、法令により5年に1回の定期点検が義務付けられています。

当支援機構では、トンネルや橋梁などの道路施設の法定点検について、現地条件に応じた適切な方法を提案し、実施することができますので、お気軽にお問い合わせください。

(構造保全課 Tel 024-597-7063)

鏡石町 鳥見山陸上競技場管理事務所&スタンドを改修しました

鏡石町にある「鳥見山公園」は、昭和50年（1975年）にスポーツレクリエーションや集いの場として整備されて以来、町内外の利用者に広く親しまれています。

公園内にある管理事務所と屋上スタンドは、陸上競技場とともに平成6年（1994年）に整備されましたが、約30年が経過した現在、スタンド床材の防水機能の低下や雨漏りなど、老朽化がみられたことから、改修工事が実施されました。



陸上競技場 全景

陸上競技場管理事務所&スタンド 全景



当支援機構は、屋上スタンドの防水機能、建物内外の床と壁面及び、照明器具など各種設備の改修工事の設計・積算・工事監理を受託しました。



- スタンドのベンチは劣化が軽微だったため、水洗い清掃のみとして工事費を抑えつつ、床は防水施工に加えて滑り止め加工を行うことで利用者の安全性を確保しました。



- 鉄製の門扉は重く、歪んでいて開閉に支障が出ていたため、軽くて丈夫なアルミ製に更新しました。また、開口幅を12mに大きくしたことでより使いやすくなりました。



- 屋内の床のポリウレタン塗床も更新したほか、屋内照明や管理棟の屋外照明をLED化することで維持管理費の低減にも配慮しました。

当支援機構では、今後とも建築事業に関する計画策定から、調査・設計・積算・工事監理に至るまで発注者の皆様を幅広く支援してまいります。お気軽にお問い合わせください。

（建築課 Tel 024-522-5124）

大熊町実務研修生：石井 和磨さん（土木技術部 土木技術課 技師）



自ら判断・対応できる職員を目指して

石井 和磨(いしい かずま)さんは、令和7年4月より大熊町役場から当支援機構に派遣されている実務研修生です。半年の基礎研修期間を経て、10月から土木技術課で積算業務の実務に取り組んでいます。

実務を通じて、自ら積極的に判断・対応できる力を身に着けたいといいます。

基礎から応用まで幅広く学びたい

石井さんは、役場では商工関係の業務を担当し、学生時代も土木分野に携わることはなく、この半年間は用語やシステムの操作、工程を覚えるのに必死だったそうです。

実務を担当するようになった現在は、町の発展に貢献できる職員を目指し、積算の基礎から応用まで幅広く学び、理解度を深めるためにも積極的に経験を積んでいきたいと語ります。

石井さんは進学を機に学び始めた簿記にのめりこみ、大会で個人・団体ともに東北大会で優勝するなど、新たな知識に対するすさまじい集中力を持ちます。この研修でも、様々な知識を吸収してくれることを期待しています。

只見町実務研修生：渡部 怜央さん（土木技術部 土木技術課 技師）

期待と不安の新生活

渡部 怜央(わたなべ れお)さんは、令和7年4月より只見町役場から当支援機構に派遣されている実務研修生です。半年の基礎研修期間を経て、10月から土木技術課で積算業務の実務に取り組んでいます。

もともと、土木分野に携わっていた父と祖父の影響で「土木」への思い入れが強かった渡部さんは、今回の実務研修について「役場では学びきれない知識と経験を得られる」という期待が大きかったそうです。

一方で、初の町外生活に不安もあったそうですが、同期や先輩方のおかげで今では充実した日々を送ることが出来ているとのこと。これからたくさんの「交流と思い出」を作っていきたいと語ってくれました。



円滑でより良い事業の実現を目指して

研修期間は残り1年半ありますが、役場の業務で多いと感じた橋梁補修や河川改修の知識を特に学んでいきたいそうです。

学んだ知識を活かし、円滑でよりよい公共工事の実現を目指したいと語る渡部さんのさらなる成長を期待したいと思います。

(土木技術課 Tel 024-522-5122)

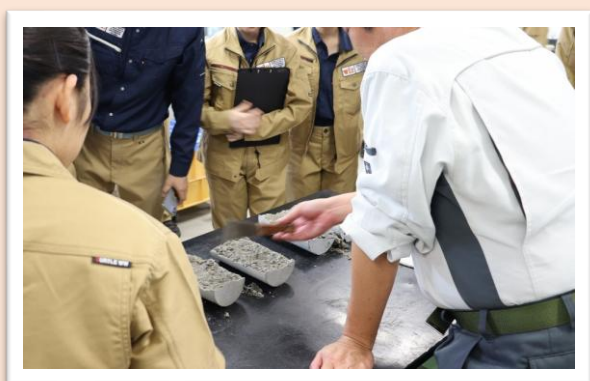
専門学生が試験実習をおこないました

10月21日に「Wiz 専門学校 国際情報工科自動車大学校(郡山市)」の建築分野専攻の学生21名が、当支援機構の試験審査所を訪れ、現場実習及び見学を行いました。

コンクリート圧縮強度試験の実習と見学

まず、自作の供試体を用いたコンクリート圧縮強度試験を実施しました。ひとりずつ当支援機構職員の説明を受けながら、緊張した面持ちで自分が作製した供試体の強度を測定していました。その日一番の強度が出ると全体が盛り上がる様子は微笑ましかったです。

試験後は、最も強度が高かった供試体と低かった供試体を割って、その断面の比較を当支援機構職員が説明しました。



続いて、高強度コンクリートの圧縮強度試験を見学した学生は、自作のコンクリートとは異なる強度や破壊音に驚き、興味深そうに観察していました。

鉄筋の引張試験の見学

最後に、鉄筋(D51)の引張試験を見学した学生は、コンクリートの破壊音以上の破断時の音に思わず肩をすくめていたほか、破断した箇所に触り、熱を持っていることに驚いている様子が見受けられました。

今回の実習及び見学会を通して、コンクリートと鉄筋、応力とひずみを体感し、建築構造物を造るためには、工事で使用される主要な材料の性状、特に力学的性質の知識が必要不可欠なことを学ぶことができたなら幸いです。

(試験審査所 Tel 024-934-8700)

【編集後記】

今年の夏も暑かったですが、9月の末ごろからどんどん気温が下がってきた気がしますね。まさに「暑さ寒さも彼岸まで」と言ったところでしょうか。

さて、「彼岸を過ぎたら海に入るな」という慣習はご存じでしょうか。水温が急に下がるため、天気が良くても遠くの台風の影響で波が高くなることもあるため、クラゲが増える時期と重なるためなど、様々な要因から水難事故に会いやすくなるという経験則からの生活の知恵のようなものだそうです。

身近に潜む危険には、意外と気づきにくいものです。時には先人たちの知恵も借りながら、自分や家族が平和に過ごせるよう注意していきたいですね。

【編集・発行】一般財団法人ふくしま市町村支援機構



TEL(代表): 024-522-5123

E-Mail: info2@fctc.or.jp

〒960-8043 福島県福島市中町7-17

FAX: 024-522-3631

URL: <https://www.fm-so.org/>



支援機構 HP